

北茨城市民健康調査検討協議会 会議の発言要旨

- 保護者も子どもも心配しているので、安心してもらう情報提供は必要。(教育関係者)
- 健康調査が行われれば、保護者は安心する。(教育関係者)

- 現時点での安心は図れるが、将来までの安心は得られない。
調査以外の方法も考えるべき。(医療関係者)
- 安心を得ることは分かるが、その費用を市が負担すべきでない。(医療関係者)

- 日本（福島事故）とチェルノブイリ事故との違いは、ヨウ素が多い
海産物の摂取量の差、汚染された食物を摂取した可能性が低く、体内
に取り込まれた可能性も低い。(有識者)
- 放射線については、「よくわからない」だから「不安、怖い」。
きちんと知ってもらうことが必要。そのためには、丁寧な説明が
不可欠である。(有識者)
- 市は、長期的に継続して調査を実施する覚悟が必要。
一時の感情で決めるべきでない。
また、調査を受ける側にも十分配慮する必要がある。(有識者)

- 実施する場合は、なぜ今行うのか。その理由を整理する必要がある。(議会関係者)
- 一般市民は、情報が分かりにくく疑問も多い、分かりやすい説明を
求めている。
市民が放射能に関し、詳しく話を聞ける機会を設けた方が良いと思う。
(一般・行政関係者)

◎次回開催予定 H25年1月30日予定